平成 25 年度事後評価・決算

事務事業マネジメントシート

| 事 | 務 | コート*1 | 33000 | 消防施設整備事業 | | 課 | 警防課 | | | |
|----|--------|-------|-------|----------------|--------|-------------|--------------------------|---|---|---|
| 事 | 業名 | コート*2 | | 防火水槽(設置・有蓋化) 「 |] 主要事業 | 所属班 電話番号 | 警防班 63-5357 内線 | | | |
| | 基本 | 方針 | 1 | 安全で魅力のあるまちづくり | 」エヌチホ | 予算 | 会計 | 款 | 項 | B |
| 施策 | 施 | 策 | 4 | 消防·防災対策 | | 科目 | 一般会計 | 9 | 1 | 1 |
| 体系 | 施策(| の展開 | | 消防・防災体制の充実 | | 根拠 | 消防法第20条 | | | |
| | 基本事業 4 | | 46 | 消火栓及び防火水槽の整備 | | 法令 相附法第20条 | | | | |

1 現状把握(Do)

| • | - | ~,, | - v |
|---|----|-----|-----|
| 4 | ١= | - | 細番 |

(1) 事業期間 ② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない

☑ 単年度繰返

□ 平成 年度~ ☑ 開始年度不詳

- ・既存の屋根のない金網張りの防火水槽に屋根を設置する。また、既存の屋根付防火水槽の屋根の破損や、防火水槽が漏水し使 用不能なものを修理し、危険のない使用可能な状態にする事業。
- ・私有地に設置されている防火水槽を、地権者からの撤去してほしいとの要望(土地の再利用をする等)や老朽化によって漏水工事 などをしても使用できない場合に撤去し、土で埋めたり、砕石を敷いたりして現状回復を行う事業
- ・地元区からの設置要望と旭市総合計画の策定にあわせ避難所等に毎年度耐震性貯水槽を整備する。

□ 期間限定複数年度 平成 ___ 年度~ 平成 年度まで ※全体像を記述=

| (2)トータルコスト | • | | |
|------------------|--------|----------------|------------------------|
| ① 事業費の内訳 | (25年度 | の実績) | 単位:千円 |
| 1.防火水槽設置工事 | | 耐震性貯水槽2箇所 | 投置 |
| 2.防火水槽有蓋化・改修工事 | 1,842 | 有蓋化改修等5箇所 | |
| 3.防火水槽解体·撤去工事 | 2,556 | 解体•撤去2箇所 | |
| 4.井戸式消火栓改修·撒去等工事 | 0 | | |
| 5.その他 | 0 | | |
| 【前年度比増減理由】耐 | 震性貯水槽: | 2基設置による増【歳入】国庫 | 補助金5,236千円、起債5,200千円ほか |
| ② 延べ業務時間 | の内訳(: | 25年度の実績) | 単位:時間 |
| ·現場確認(危険 | 箇所に立 | ち入り禁止テープ張り |)及び標識の設置等・市役所関 |

係課、業者との現場確認も含む)・予算化・起案・各工事検査立会い 90時間

| | | | 単位 | 23年度 (決算) | 24年度 (決算) | 25年度 (決算) | 26年度 (計画) |
|----|----|-------------------|----|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 費 | 1. 防火水槽設置工事 | 千円 | 11,855 | | 14,385 | |
| | 目 | 2. 防火水槽有蓋化・改修工事 | 千円 | 1,629 | 3,091 | 1,842 | 7,945 |
| 事 | 占内 | 3. 防火水槽解体·撤去工事 | 千円 | 2,259 | 3,321 | 2,556 | 2,287 |
| 業費 | 訳 | 4. 井戸式消火栓改修·撤去等工事 | 千円 | | | | |
| 費 | | 5. その他 | 千円 | | | | |
| | | 事業費計(A) | 千円 | 15,743 | 6,412 | 18,783 | 10,232 |
| | | うち一般財源 | 千円 | 10,399 | 6,412 | 7,054 | 10,232 |
| 人 | | 正規職員従事人数 | 人 | 0.03 | 0.03 | 0.04 | 0.07 |
| 件 | | 延べ業務時間 | 時間 | 65 | 56 | 90 | 144 |
| 費 | | 人件費計(B) | 千円 | 247 | 213 | 342 | 547 |
| | ┣. | ータルコスト(A)+(B) | 千円 | 15,990 | 6,625 | 19,125 | 10,779 |

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

| ı | | ① 土る冶動 |
|---|---------|---|
| ı | | 25年度実績(25年度に行った主な活動) |
| ı | | 耐震性貯水槽設置 2箇所 |
| ı | | 有蓋化·改修工事 3箇所 防火水槽蓋設置 1箇所 |
| ı | 丁 | 防火水槽ポンプ小屋・ポンプ撤去 1箇所(緊急工事) |
| ı | 权 | 有蓋化・改修工事 3箇所 防火水槽蓋設置 1箇所 防火水槽ポンプ小屋・ポンプ撤去 1箇所(緊急工事) 防火水槽撤去 2箇所 |
| ı | | 26年度計画(26年度に計画している主な活動) |
| ı | | + + 1, 1, k-+ + 1, k+ - k+ |

有蓋化・改修工事 11箇所 防火水槽撤去 5箇所 井戸式消火栓撤去 1箇所

| ≱ | 5 | 活動指標名 「単位 | | 23年度(決算) | 24年度 (決算) | 25年度(決算) | 26年度 (計画) |
|---|---|-----------------------------|----|----------|--------------|----------|--------------|
| | ア | 防火水槽有蓋化・修理箇所数 (井戸式消火栓含む) | 箇所 | 8 | 4 | 5 | 11 |
| | イ | 防火水槽撤去数 (井戸式消火栓含む) | 基 | 4 | 3 | 2 | 6 |
| | ウ | 耐震性貯水槽設置数 | 基 | 1 | | 2 | |

② 対象(誰、何を対象にしているのか)

- ·有蓋化·改修対象防火水槽
- ・私有地の撤去要望防火水槽
- ·耐震性貯水槽

日

目 的

③ 意図(対象がどのような状態になるのか)

- ・消火活動の際に、使用できる状態を保つ。また、人(特 こ子ども)が転落する等の危険防止を図る。 ・撤去し現状回復し土地の再利用をする。
- ・耐震性貯水槽を設置することにより、大災害があったと きも消火用水及び生活用水として使用することができる ようにする。

④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか

市民の安全、生命、財産を災害等から保護する。 位

| | 6 | 対象指標名 | 単位 | 23年度 (決算) | 24年度 (決算) | 25年度(決算) | 26年度(計画) |
|--------------|---|---------------------------------------|----|-----------|--------------|----------|--------------|
| | ア | 有蓋化・改修対象防火水槽及び撤去防火水槽数 | 基 | 130 | 141 | 113 | 100 |
| | イ | | | | | | |
| | 7 | 成果指標名(考え方) | 単位 | 23年度(決算) | 24年度 (決算) | 25年度(決算) | 26年度 (計画) |
| | ア | 有蓋化・改修工事・撤去工事の実施箇所数(割合)(19年度~の工事件数) | 箇所 | 62 | 71 | 78 | 95 |
| | イ | 耐震性貯水槽設置基数(累計) (私設・公設の合計数)()内は公設数 | 基 | 71 (37) | 77 (39) | 83 (43) | 87 (44) |
| | 8 | 上位成果指標名(考え方) | 単位 | 23年度(決算) | 24年度 (決算) | 25年度(決算) | 26年度(計画) |
| | ア | 消防水利の充足率 () | % | 63.0 | 63.0 | 63.0 | |
| | イ | 火災による被害額 (平成25年度にあっては概算) | 千円 | 118,869 | 88,560 | 186,790 | |

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始

- ・金網張り防火水槽は転落等の危険があるため、 屋根付きにしてほしいとの要望により始まった
- ・地権者から土地を再利用したいなどの撤去要望 があり、地元区長・地元消防団の承認を受け撤去 することとなった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠 法令等)はどう変化しているか?開始時期 あるいは5年前と比べてどう変わったか?

- ・老朽化により既存の屋根付防火水槽の改修要望 が多く、金網張り防火水槽の有蓋化が進まない。
- ・撤去要望が年々増加しているが、予算不足のた め早急な対応ができない
- ・水道の普及により、消火栓が増加したため防火 水槽の必要性の認識が薄くなってきている

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業 対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が 寄せられているか?

・市議会議員、地元区長、地元消防団より転落危険があるた めと改修要望が多い。・地権者からは年度内に撤去しても らいたいと強い要望がある。(予算化されていない場所)・消 火栓があるので防火水槽は必要がないのではないかという 意見がある。 ・地権者より(付近での火災の発生等を受け) 私有地等に防火水槽を作ってほしいと要望もある。

| | 事務事業名 消防施設整備事 防火水槽(設置・ | | 課名 | 警防課 | 班名 | 警防班 |
|------|---|--|--------|-----------|--------------|----------------------------|
| 2 | 評価(Check1)担当者による事後評 | 西 | | | | |
| | ① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか?意図することが上位目的に結び ついているか? | □ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒ → □ 結びついている ⇒ □ 理由 □ ⇒ □ ⇒ □ 対 → □ □ 対 ⇒ □ □ → □ □ □ → □ □ □ → □ □ □ □ □ □ □ □ | 実施するこ | ことにより、消防体 | 制の充実 | を図ることは、市 |
| 的妥当 | ② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか?意図を限定・拡充すべきか? | □ 見直し余地がある ⇒【理由】 → → → → → → → → → → → → → → → → → → → | 水槽を適 | 切に整備、改修す | -ることは、 | 安全で効率のよ |
| 評価 | ③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならない のか?税金を投入して実施すべきか? | □ 見直し余地がある ⇒【理由】 → □ 受当である ⇒ □ 団 対 → □ 団 対 → □ □ 受当である ⇒ □ 団 対 → □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ | | | | |
| | ④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか?近 | たい、「日本学 () は、現状回復することで市の) でとなっている。 撤去については、現状回復することで市の] 見直し余地がある ⇒【理由】 → (理由) → (まだ有蓋化や屋根の修理・漏水修理、撤去要望も多く残って | 責務が果た | <u> </u> | | |
| | 隣市や類似団体と比較してどうか? ⑤ 成果の向上余地 ※佐藤以際のは関係したが開発できるか? | ☑ 活動量を増やせば成果は向上する □ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は | | | ⇒【理由 | Ī ¬ Š |
| 有効性評 | 次年度以降の成果向上が期待できるか? 事務事業を取り巻く環境変化等を考慮する とどうか?成果の向上余地はどの程度ある か? ⑥ 類似事業との統廃合・連携の | □ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成有蓋化・屋根の修理・漏水修理・撤去要望数は、ある程度数は成果の向上は期待できる。しかし、事業費が増えることとな設置分の事業費は減らせる。 □ 他に手段がある | が把握で | きているので、毎 | | 事箇所を増やせ |
| 価 | 可能性 目的を達成するには、この事務事業の他 (民間・国県を含む)に方法があるか? | (1) 事務事業名:(消火栓設置・維持管理業務 (2) □ 統廃合ができる ⇒【理由】 □ 連携ができる ⇒【理由】 □ 世に統廃合・連携している ⇒【理由】 □ | | | |) |
| | 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か? (2)類似事業との統廃合ができるか?類似 事業との連携を図ることにより、成果の向 上が期待できるか? | □ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 う 消火栓設置・維持管理業務と連携することにより、消防水利。 □ 他に手段がない ⇒【理由】 ♪ | の充足率の | の向上に期待がで | <i></i> できる。 | |
| 効率 | ⑦ 事業費の削減余地 (表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか?(経費の精査、 過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど) | □ 削減余地がある ⇒【理由】 → □ 削減余地がない ⇒【理由】 → 現在でも要望に応えられるのは、早くても来年度になってか 修要望・撤去要望に早急に応えることができず、関係者から | | | | |
| 性評価 | ⑧ 人件費の削減余地 (表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など) | る。設置については、ここ数年は毎年隔年で整備している。 □ 削減余地がある ⇒【理由】 → □ 削減余地がない ⇒【理由】 → □ 班員2名のうち、1名が担当しているためこれ以上の削減は 町村が設置・維持・管理することと定められているため、臨時 | | | | |
| 公平 | の延べ業務時間を削減できないか? ③ 受益機会・費用負担の | ☑ 見直し余地がある ⇒【理由】 <mark>→</mark> | | | | |
| 性評 | | □ 公平・公正である ⇒【理由】 → 防火水槽は、火災等が発生した場合、消火活動に使用する とはないが、有蓋化や撤去について、要望に対して必ずしも ばしして実施している場合もあるため、要望への対応としてに | 希望年度 | に実施できず、危 | に険度の判 | |
| 3 (1 | ② 有効性 ☑ 適切 □ 見直 ③ 効率性 ☑ 適切 □ 見直 | 情果と終括 (2)全体終括(振り返り、反省点) し余地あり 毎年度の有蓋化、改修、撤去については、計画 し余地あり 修理・漏水修理、撤去要望は多く残っている。 成 記念地あり 続き計画的・効果的に事業を執行していき、実施 し余地あり 位を決定し、要望者の理解を求めていく。 | え果向上に | は予算の増加が | 伴うため、 | 現状どおり引き |
| | 今後の方向性(事務事業担当課案)()今後の事業の方向性(複数選択可) 目的再設定 事業のやり方改善による成果向上 事業のやり方改善による事業費削減 受益機会の適正化 廃止・休止 | | | | :・休止の場 | よる期待成果 合は記入不要) コスト 減 維持 増加 |
| | いつまでに ①~③継続実施 ①署員の調査で危険度を判定 以上)に適合の防火水槽は、抗 めていく。 ③老朽化して危険 | をでに、なにを、どうするのか? なにを、どうするのか? にし、金網張り防火水槽の有蓋化を1箇所組み入れ事業を進める。 ②消防水 放去を控えるよう地権者に協力を求める。 また、20㎡未満の防火水槽は行政区 な水利は、消防団からの情報提供及び立入禁止テープの設置等、協力を随即 | での撤去を対 | m³ | 維持低下 | |
| (1) | 特に転洛厄険箇所の見洛としに注意し 地権者、地元区、地元消防団の防火水 消防団にも啓発活動(安全教育・注意® | き課題(壁)とその解決策 、子供への安全教育に対する啓発活動も併せて行っていく。 槽への必要性について理解がなければ実施できない。 や起等)や安全確保(立入禁止テープを張ってもらう等)などで 、人員が不足している。 ①、②事業執行の優先順位決定及で | で協力をし | | -న్య | |